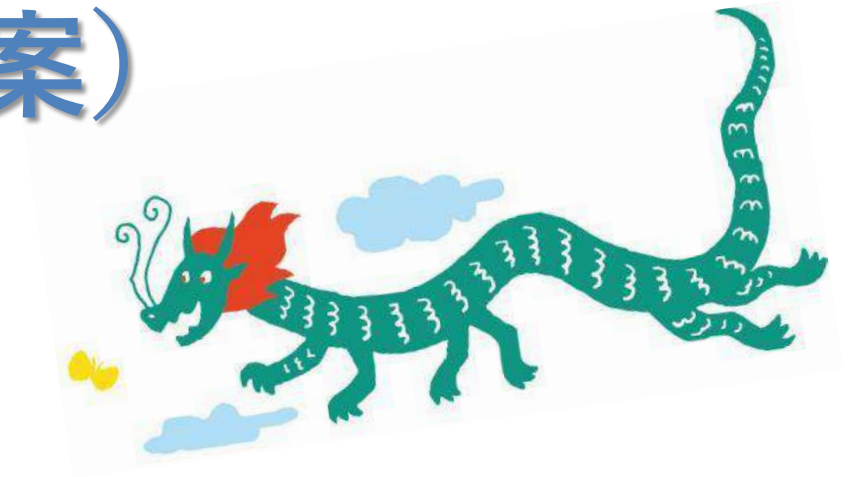
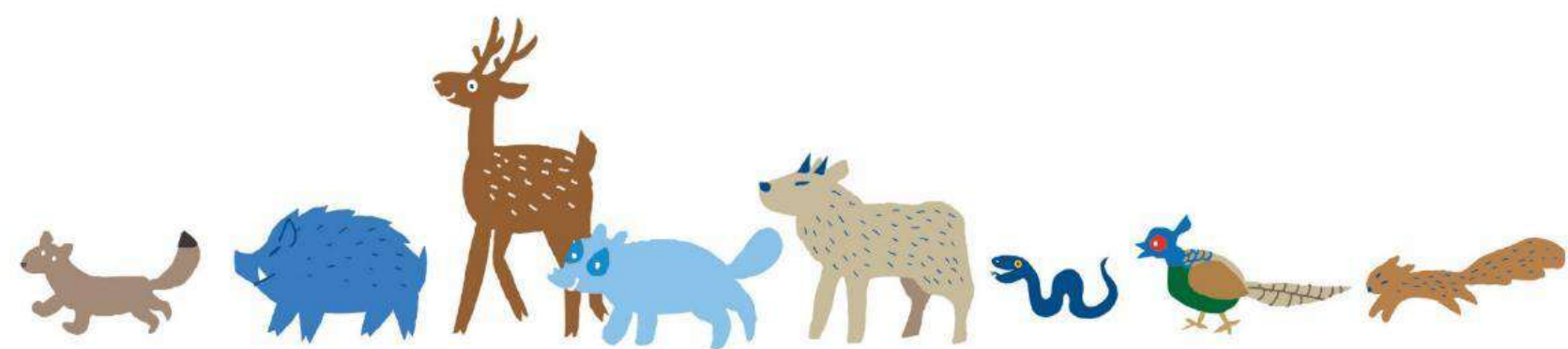


地域の未来・志援センター 2022年度事業報告 (案)



2023年7月8日





目次

目指す社会の姿	P 4
①小さな役場づくり：丹生川地区曼荼羅づくり『地域資源ヒアリング調査』	
②人材育成： 1、中部流域連携ネットワーク・天竜川流域交流会サポート	P 6
1) 中部流域連携ネットワーク支援	P 8
2) 22世紀奈佐の浜PJ学生部会・OBOGネットワークづくり	P12
： 2、ローカルSDGsリーダー養成講座	
3) ローカルSDGsリーダー養成講座「共通講義」づくり	P15
4) ローカルSDGsリーダーの働き方ヒアリング	P18
： 3、多文化共生担い手発掘事業	P19
： 4、NPOセンタースタッフ交流会	P20
③伴走支援： 1、森と子ども未来会議 伴走支援 with 矢作川流域圏懇談会	
1) 法人化コンセプトづくり	P21
2) 森とまちをつなぐESD/担い手事例集ミライ会議との協働	P22
3) 若者 根羽村合宿&矢作川流域ツアーコーディネート	P22
： 2、各地域の取り組み	P26
4) 三重県北勢地域	
5) 愛知県渥美半島	
6) 岐阜県西濃地域	
④今、ここにいない人へのアプローチ（中間支援の見える化）	
1) ツールづくり	P27
2) パイロット版パッケージづくり	P28
⑤補助金や助成金（資金調達）に強くなるための調査・実践／ローカルESG勉強会	P33
助成財団サミット	P34
⑥メールニュースの発行、ウェブサイトの更新	P34
⑦総会および理事会・運営会議の開催	P35

目指す社会の姿

1. 協力社会をめざした人が緩やかにつながる社会
2. 持続可能な地域のために、頑張りたい人が頑張れる社会
3. 社会課題を自分ごととしてとらえ、参画している人が増えて
いる社会

①小さな役場づくり

地域の将来を描く場となり、行政とパートナーシップを組む母体となり、地域を自立・分散型に変える経験やノウハウを蓄積して人材育成の場となる新たな中間支援組織を育む支援を行います。

丹生川地区曼荼羅づくり「地域資源ヒアリング調査」

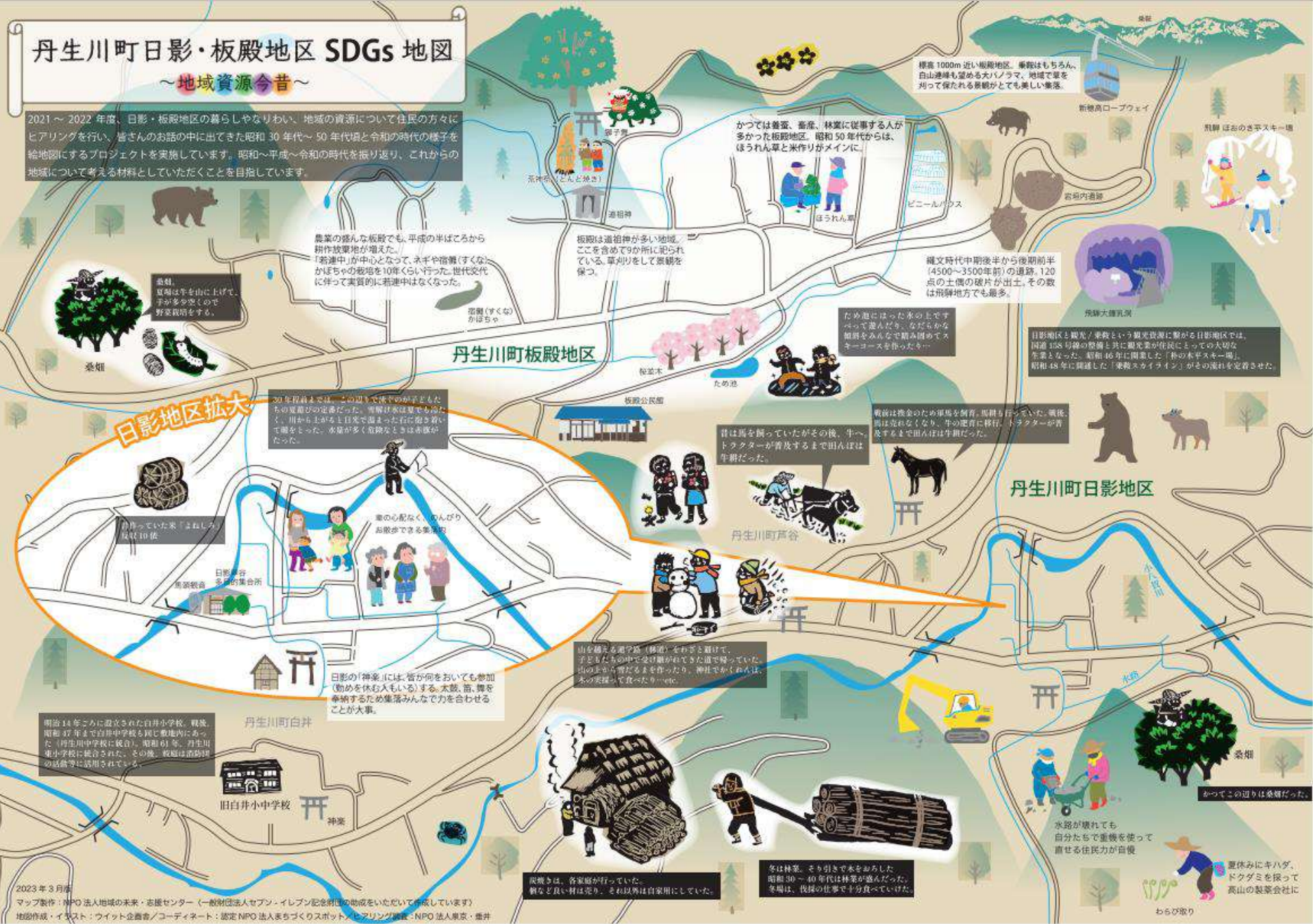
調査地域：高山市丹生川地区日影・板殿／まちづくりスポット、泉京・垂井協働事業

■後継者《30～50代》の9割が住み続ける地域において、その原因を探るヒアリング

	第5回	第6回(未実施)	第7回	第8回	第9回
日にち	2022/4/29～30	2022/夏～秋	2022/9/18～19	2022/12/12～13	2023/2/18
場所	高山市丹生川日影地区と板殿地区	西濃地域(揖斐川町坂内地区)	高山市丹生川日影地区 シャレー中西	高山市まちづくりスポット	高山市丹生川日影地区 シャレー中西
訪問者	竹内・三ツ松・河合 鉄井・神田(泉京・垂井)	竹内・三ツ松・河合 鉄井・神田(泉京・垂井)	竹内・三ツ松・河合 鉄井・神田(泉京・垂井)	竹内・三ツ松・デザイナー	竹内・三ツ松・河合 鉄井・神田(泉京・垂井)
内容	*新自治会長への挨拶 *追加ヒアリング:福祉村、水利、消防団、祭りについて(地域資源マップver.1紹介)	類似地区ヒアリング比較調査 受入れ地域と調整していたが、 コロナ第七波のため延期。	地域を歩きながらのヒアリング。 ヒアリング結果のまとめ。	*地域資源マップ制作とワークショップでのマップ活用について打合せ	*曼荼羅づくりワークショップ



丹生川地区曼荼羅づくり「地域資源ヒアリング調査」



2022 年度地域資源調査～曼荼羅づくりのための基礎調査 報告書



特定非営利活動法人 地域の未来・支援センター
調査：特定非営利活動法人 泉京・垂井

2023 年 3 月



②人材育成

22世紀奈佐の浜PJ&中部流域連携ネットワークと混ざりあいながら活動してきた『未来創造プログラム』＝「流域思考・ESD活動」をOBOGのネットワークづくりを軸に据えて展開する。



②-1 中部流域連携ネットワーク・天竜川流域交流会サポート（未来創造プログラム）

1) 中部流域連携ネットワーク 南信州・天竜川流域交流会開催支援

同ネットワークが進める活動をサポートし、「南信州・天竜川流域交流会」（催事名：中部のいい川ワークショップ in 天竜川流域）の開催をバックアップ。準備段階から「未来創造プログラム」メンバーとOB/OGの参加機会をつくり、活動を活性化。

多数のステークホルダーとともに多世代が学びあう関係性構築を進めた。

❖ 5月6～8日 天竜川下流から源流まで まるごとエクスカーション

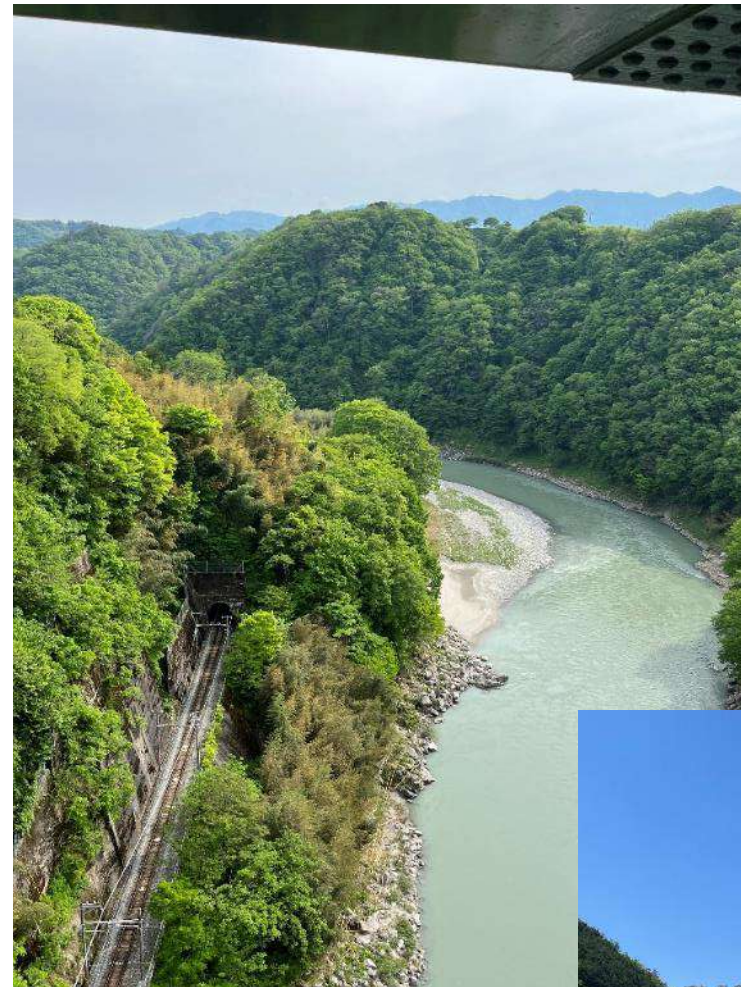
行程 5月6日 ① 愛知県大千瀬川の煮渕ポットホール、愛知～静岡に至る中央構造線露頭箇所
②佐久間ダム（静岡県浜松市） ③ 天竜峡にかかる歩道橋 「そらさんぽ」（長野県飯田市）
④飯田城址（飯田市）より天竜川を俯瞰
5月7日／⑤ 天竜峡・天竜川ライン下り（飯田市） ⑥ 小渋ダム、排砂バイパストンネル（中川村）
⑦ 大鹿村 中央構造線博物館（河本氏ガイド） ⑧ 諏訪湖釜口水門（岡谷市） 天竜川最上流端
5月8日／⑨ 諏訪湖湖畔、及び「御柱祭」（2022年は7年に一回の開催年）関連個所の視察（下諏訪町）
諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口智徳氏他の案内による

1) 中部流域連携ネットワーク 南信州・天竜川流域交流会開催支援

❖ 2022年5月6～8日 天竜川下流から源流まで まるごとエクスカーショ



大千瀬川・煮渕ポットホール



そらさんぽからの天竜峡の眺め

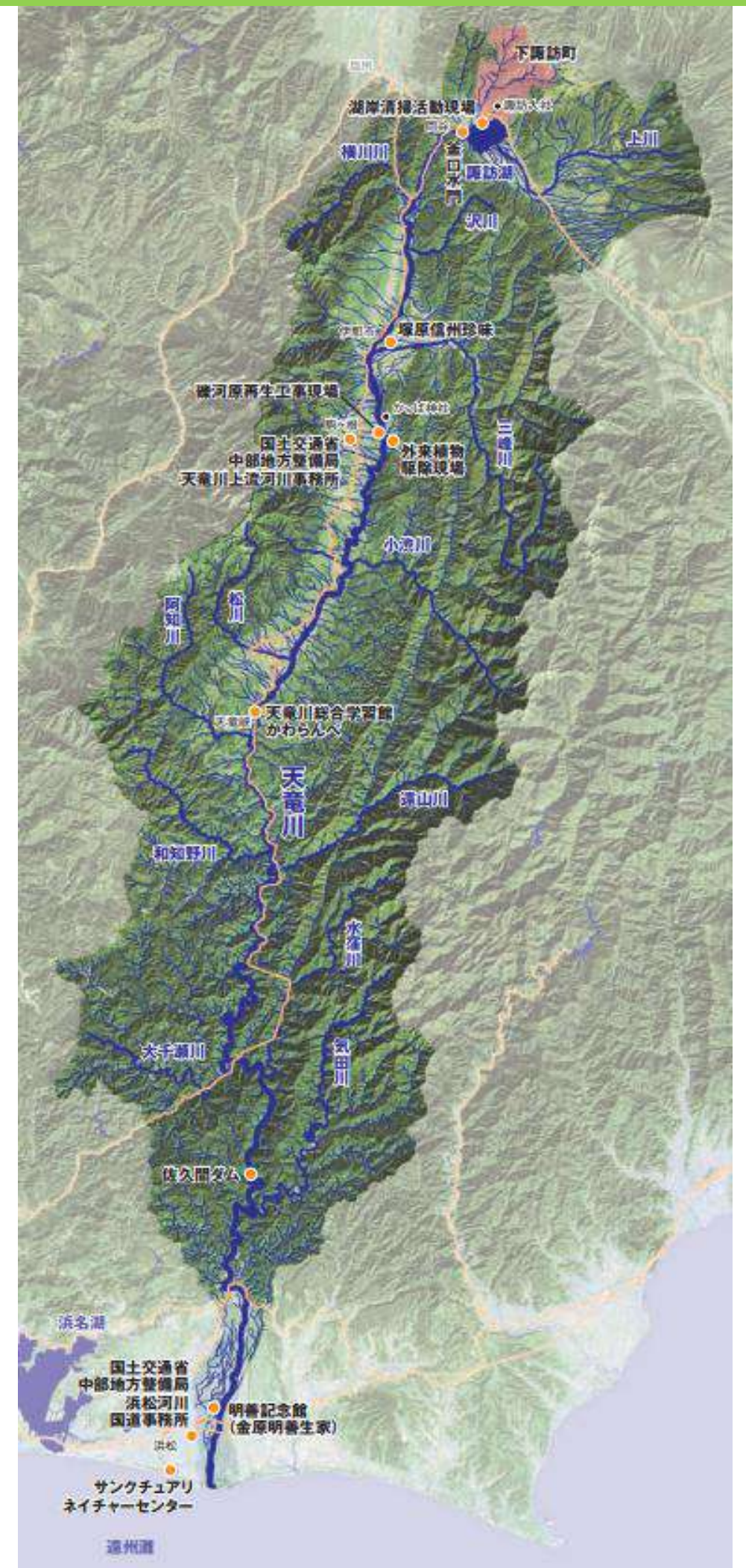
天竜峡にて 天竜川ライン
下り体験
河原には細かい砂が見られる



大鹿村中央構造線博物館にて 河本さんから丁寧な説明を受ける



下諏訪町 諏訪湖畔にて 湖浄連のみなさまと共に



1) 中部流域連携ネットワーク 南信州・天竜川流域交流会開催支援

❖ 中部のいい川ワークショップ in 天竜川流域開催支援

実行委員会運営サポート/日程調整、オンライン設定、議事録作成などを行った

	日にち	参加者	内容
第1回	2022年5月17日	17人（内学生4人） 愛知県5人、岐阜県3人、三重県2人、静岡県2人、長野県4人、全国1人	開催時期、場所、開催体制、開催目的、企画など
第2回	2022年8月8日	15人（内学生2人） 愛知県5人、岐阜県1人、三重県1人、静岡県2人、長野県6人	企画検討、費用負担など
第3回	2022年8月27日	8人 愛知県1人、三重県1人、静岡県2人、長野県4人	実行委員長確定、運営、発表団体の確認
第4回	2022年9月21日	10人（内学生1人） 愛知県4人、岐阜県1人、静岡県2人、長野県3人	後援団体、パネルディスカッション、発表団体についてなど
第5回	2022年10月18日	3人（パネルディスカッション登壇者のみ）	パネルディスカッションのうちあわせ
現地打合せ	2022年10月28日	現地実行委員（NPO法人天竜川ゆめ会議メンバー、国交省中部整備局職員など）20名	会場視察と当日の役割分担
第6回	2022年11月8日	7人（内学生2人） 愛知県4人、岐阜県1人、三重県2人、静岡県1人、全国1人	当日の進行、役割分担など



第3回実行委員会の様子

1) 中部流域連携ネットワーク 南信州・天竜川流域交流会開催支援

❖ 2022年11月12～13日 中部のいい川ワークショップ in 天竜川流域

場 所 宮田村民会館(長野県宮田村7021番地)

主 催 中部流域連携ネットワーク

共 催 特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議

／宮田村／宮田村教育委員会

／(一社)長野県測量設計業協会

協 力 特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター

後 援 国土交通省中部地方整備局／愛知県／岐阜県／三重県／静岡県／長野県

／駒ヶ根市／飯島町／中川村／長野県治水砂防協会／長野県河川協会／長野県

砂防ボランティア協会／(一社)長野県建設業協会／(一社)建設コンサルタ

ンツ協会関東支部長野地域委員会／信濃毎日新聞社／中日新聞社／岐阜新聞社、

岐阜放送／長野日報社／信州・市民新聞グループ／南信州新聞社／長野放送 他

参加人数 約100名



開会の辞 小田切宮田村村長



流域連携・キラリを探すパネルディスカッション

〈ファシリテーター〉

NP0法人天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩さん

〈コメンテーター〉

名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 中村晋一郎さん

〈パネリスト〉

- ・中部地方整備局 河川部長 舟橋弥生さん
- ・愛知県建設局 治水防災対策監 久保 宜之さん
- ・岐阜県 県土整備部 河川課長 岩井 聖さん
- ・三重県 県土整備部 次長 山口 成大さん
- ・長野県 建設部 河川課長 川上 学さん



22世紀奈佐の浜プロジェクト実行委員会・学生部会の発表
(未来創造プログラムメンバー)

キーワード「伊勢湾流域」「つながり」「学生合宿」

※詳細は、別紙「中部流域連携ネットワーク 2022年度報告書」参照

2) 22世紀奈佐の浜PJ学生部会・OBOGのネットワークづくり

■ 22世紀奈佐の浜PJ／高山林業合宿

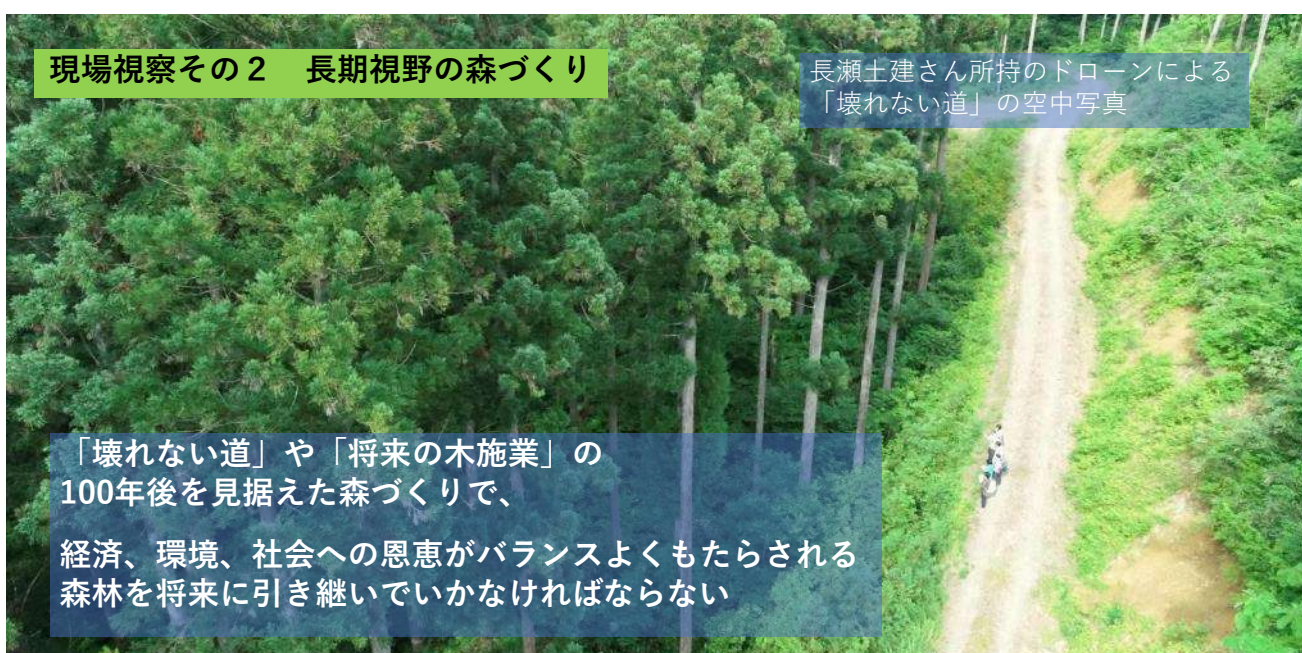
❖ 2022年7月8～9日、12月12日

壊れない道づくりに学ぶ山の保全活動 in 高山

協力 株式会社長瀬土建（高山市久々野町）

参加者 飯坂温子（椋山女学園大学）川野純也（岐阜大学）

米田紗歩（岐阜大学）川崎海斗（信州大学）佐竹寅次郎（同左）



根羽合宿、中部のいい川in天竜川流域に参加した学生が、未来造像プログラムのメンバーに

2) 22世紀奈佐の浜PJ学生部会・OBOGのネットワークづくり

■ 22世紀奈佐の浜PJ／答志島合宿
→ 学生部会が仲間を増やすツールに

❖ 2022年10月8～9日 答志島桃取 学生部会合宿

参加者 岐阜大、三重大、信州大、北里大、四日市大の学生18名
学生部会OB3名、応援者2名＋22世紀奈佐の浜プロジェクト実行委員



● 7月12日 鳥羽関係者及び森里海をつなぐフォーラム打ち合わせ



答志島・桃取にて初顔合わせ。鳥羽市役所の紹介で(株)リマーレの海洋プラの再資源化ラボ視察



● 7月15日 コアメンバー・対面での合宿MTG



● 8月22日間瀬氏に海ビンゴ協力 ● 9月4日 広報に関する打合せ



オンラインで
MTGを重ねる

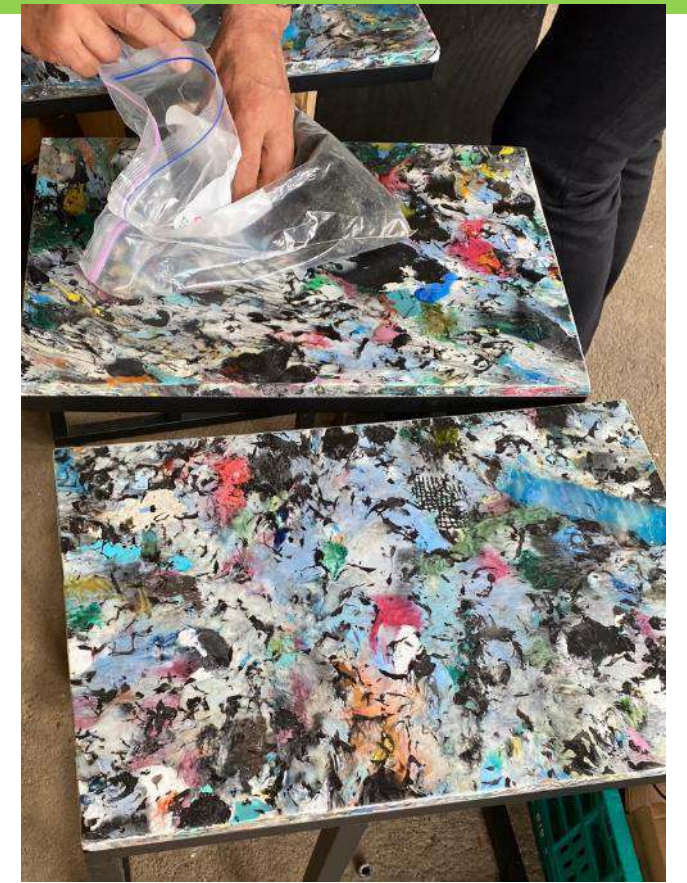
● 9月23日 渡船や昼食、
駐車場、宿泊施設の視察

2) 22世紀奈佐の浜PJ学生部会・OBOGのネットワークづくり

❖ 2022年10月8～9日 答志島桃取 学生部会合宿



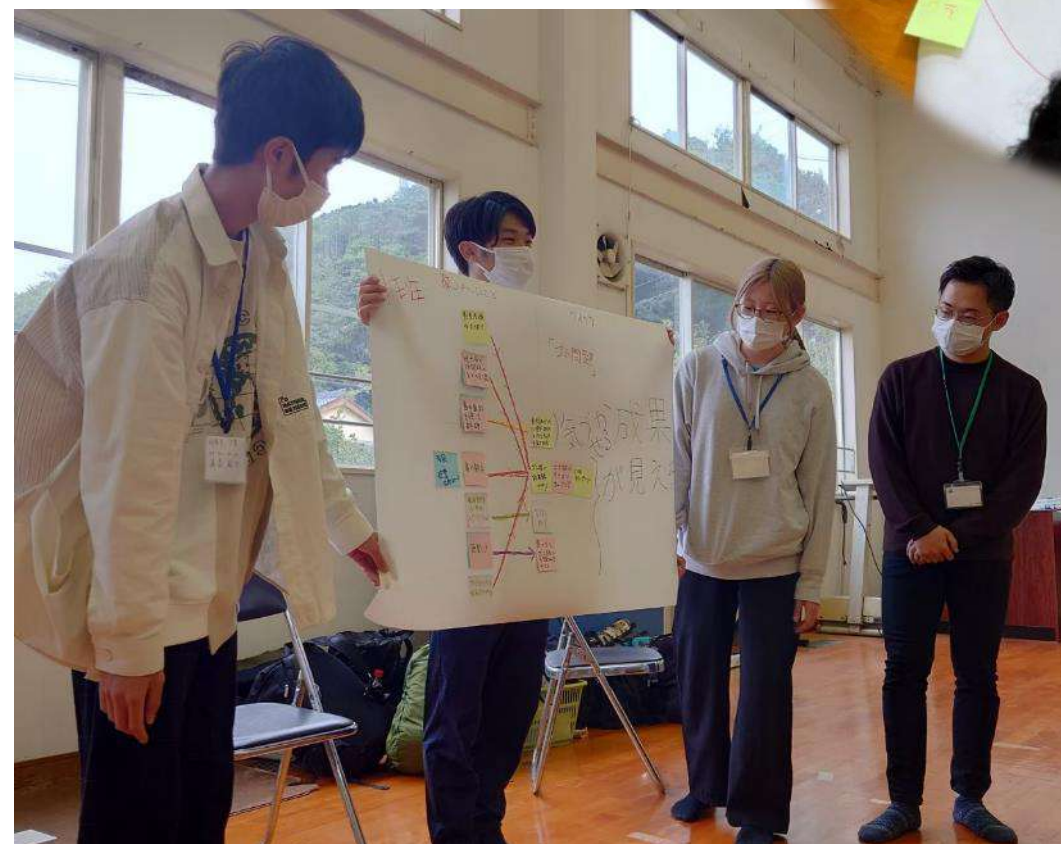
漁師さんが集めた海洋プラの再生工場（@（株）リマーレ）視察



海岸清掃とマイクロプラスチックを分別するビンゴ

2) 22世紀奈佐の浜PJ学生部会・OBOGのネットワークづくり

❖ 2022年10月8～9日 答志島桃取 学生部会合宿



②-2 ローカルSDGsリーダー養成講座

3) ローカルSDGsリーダー養成講座「共通講義」づくり研究会



月日	講師	タイトル	内容
4月16日	神田 浩史 氏 NP0法人泉京・垂井 副代表理事	「社会の持続可能性が不安視される理由」 第1回	資本主義の歴史・変遷、現代社会を覆う問題群がなぜ、引き起こされたのか？その構造的な問題を「どの時代にさかのぼり」、どのような切り口で講義内容に落とし込むかの検討を行った。
	菊本 舞 氏 岐阜協立大学 経済学部 准教授	「地域経済循環の再構築」第1回	「社会の持続可能性が不安視されるわけ」パートで語られた内容を、地域経済の何が壊されていったのかという視点で伝える内容としたいが、それをどのような表現で行うかについて検討。
5月17日	神田 浩史 氏 NP0法人泉京・垂井 副代表理事	「社会の持続可能性が不安視されるわけ」 第2回	資本主義の進展⇒グローバリズム：ネオリベラリズム的な政策が世界経済の主流になってことで、私たちの暮らしを支える地域がどのように疲弊していったか、その伝え方を検討した。
	菊本 舞 氏 岐阜協立大学 経済学部 准教授	「地域経済循環の再構築」第2回	地域経済の何が壊されていったのかという項目の整理、再構築するには、何に着目していったらよいかについて、菊本氏のこれまでの地域経済研究、地域資源の循環的活用についての知見を伺った。
5月31日	神田 浩史 氏 NP0法人泉京・垂井 副代表理事	「社会の持続可能性が不安視されるわけ」 第3回	資本主義の歴史・変遷を、コロンブスの時代（大航海時代）までさかのぼって解説することを合意。本パートは、約100分とし、前半はコロンブス時代～第2次世界大戦、後半は第2次世界大戦～現代までとすることを決定。
6月7日	神田 浩史 氏 NP0法人泉京・垂井 副代表理事	「社会の持続可能性が不安視されるわけ」 第4回	ネオリベラリズム的な政策により、1980年代以降、先進国の内部にも格差が広がり、資本主義経済の構造がはらむ「外部化」が、都市・大企業には有利に、地方・地域密着型企业や商店には不利となり、この構造の下では地域循環共生圏や地方創生はうまくいかないことを受講生にしっかり伝えるにはどうしたらよいかを検討。菊本氏のパート2との内容がダブリが内容。すり合わせを行い、講義内容を最終調整。
	菊本 舞 氏 岐阜協立大学 経済学部 准教授	「地域経済循環の再構築」第3回	神田氏のパート1で、構造を見る目を持ったのち、その打開策のヒントとなる「地域経済学」の最新知見をわかりやすく表現するにはどうしたらよいかについて検討し、講義内容の最終調整を行った。
	尾山 優子 氏 GEOC事務局長	「なぜ、地域にコーディネーターが必要なのか？」第1回	『ローカルSDGs』とは何を意味するのか？ 地域を持続可能に変革するため、今求められている人材像・リーダー像について検討。

3) ローカルSDGsリーダー養成講座「共通講義」づくり研究会

月日	講師	タイトル	内容
6月10日	神田 浩史 氏 NP0法人泉京・垂井 副代表理事	「社会の持続可能性が不安 視されるわけ」 第5回	オンデマンド講義
6月14日	菊本 舞 氏 岐阜協立大学 経済学部 准 教授	「地域経済循環の再構築」 第4回	オンデマンド講義
6月15日	尾山 優子 氏 GEOC事務局長	「なぜ、地域にコーディネーターが必要なのか？」 第2回	『地域循環共生圏』とは何か？ それを実現するために求められるコーディネーターの役回りについて検討。
7月27日	尾山 優子 氏 GEOC事務局長	「なぜ、地域にコーディネーターが必要なのか？」 第3回	オンデマンド講義



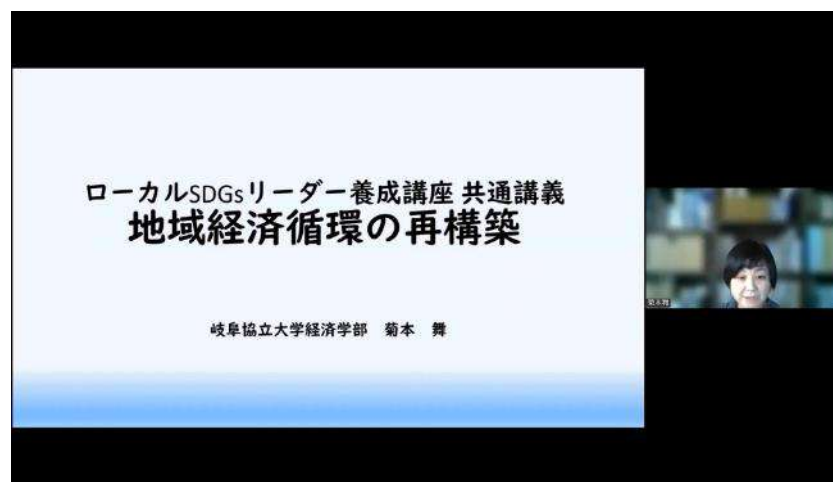
3) ローカルSDGsリーダー養成講座「共通講義」づくり研究会

●共通講義 1 「大きな歴史から読み解く地域社会の構造と社会課題とのつながり」



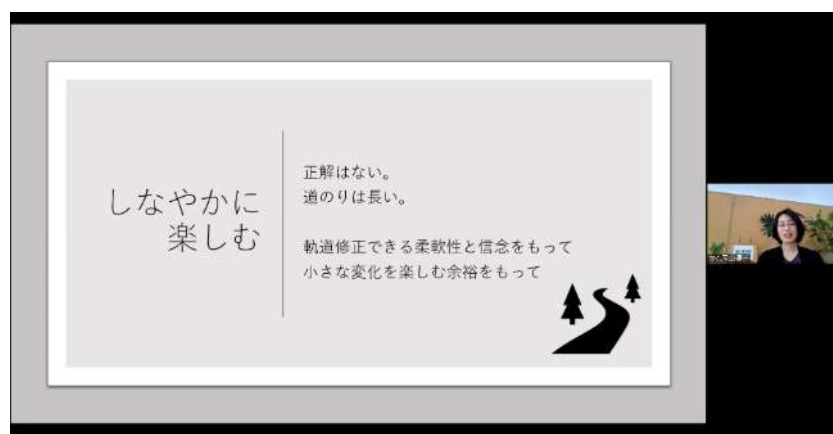
- ①南北問題の起源 https://youtu.be/_P9y73QAZ08
- ②植民地支配の変遷 https://youtu.be/0L_H7Q+8CoE
- ③グローバリズムの進展 https://youtu.be/XXfVP_XCeMY
- ④グローバリズムと地域社会 <https://youtu.be/Y5TGsNM7IU0>

●共通講義 2 「地域を視点に考える経済循環と地域資源、内発的发展」



- ⑤地域経済循環の再構築 <https://youtu.be/rh9hHgHF7vs>
- ⑥資本主義経済システムは地域をどのように扱ってきた？ <https://youtu.be/h4r3JIOR2uc>
- ⑦地域を視点に考える経済循環
～行き過ぎた資本主義から片足を外すには～ <https://youtu.be/6icJwL4jsG4>

●共通講義 3 「なぜ、地域にコーディネート、プロデュースできる人が必要なのか？」

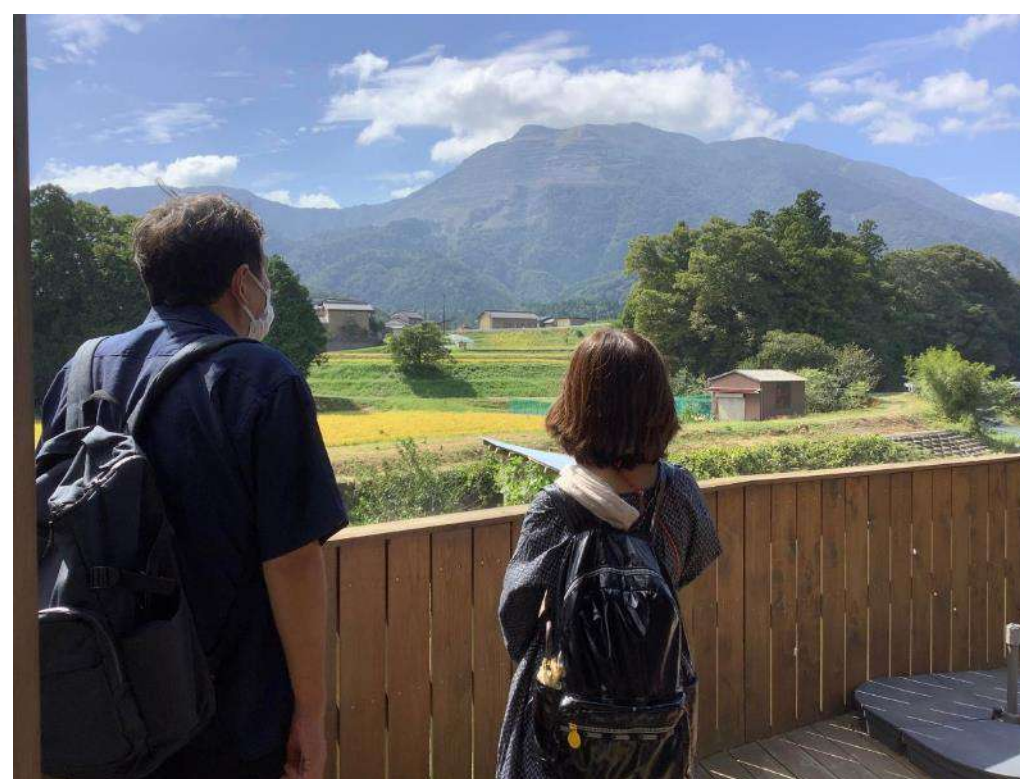


- ⑧ローカルSDGsリーダーの役回りについて <https://youtu.be/yZsII148dk>



4) ローカルSDGsリーダーの働き方ヒアリング

日にち	場所	ヒアリング対象者	内容
2022年5月15日	まちづくりスポット飛騨高山 (岐阜県高山市)	高山市日影（ひかげ）地区 町内会長 牧上一成 氏	地域内の世代交代が進み、若者の域外流出が少ない丹生川地区の牧上氏に、ふるさと福祉村での取り組みや、地域でのなりわいについてヒアリングを実施した。
2022年6月17日	上木食堂 (三重県いなべ市)	いなべフェアトレードタウン代表 羽場 典子 氏	三重県いなべ市はフェアトレードタウンに認定されていて、フェアトレードを基軸に地域づくりが行われている。その活動や生業、地域で起業した若い移住者との関係などを伺った。
2022年9月24日 2023年2月15日	八風農園 (三重県いなべ市)	八風農園 松風カンパニー 寺園 風 氏	移住して起業する若者が増えている地域で、そのコミュニティの中心人物である寺園氏に人心の働き方や、運営する松風カンパニーの従業員に対しての思いなど、個人と経営側との両面からお話を聞いた。
2022年10月5日	小林工房 (三重県桑名市)	NP0法人 桑竹会 西山 光信 氏	放置竹林の課題解決を行う市民団体代表の西山氏に、定年後の仕事、第二の人生についてや、そのような人たちが集まる団体の運営方法などについてヒアリングした。
2023年2月17日	柳本産業 (静岡県浜松市)	Gramme 柳本産業 山本 茉希 氏	瓦という伝統産業を家業とし、その瓦や地域産業を普及するために起業した山本氏に、地域に根差した伝統産業ならではの働き方や地域の巻き込み力、協働について話を聞いた。



②-3 多文化共生担い手発掘事業

東海地域にある多文化共生に取り組む有志や団体とともに、多文化共生に取り組む人材の発掘・育成を目指してJICA中部と協働し、3回連続講座を実施。

2022年度多文化共生パートナー育成講座

with DIVERSITY ～知る、つながる、共に暮らす～

❖第1回：基礎講座（ホップ）

2022年12月18日（日）13:30～16:30

基調講演「マイクロアグレッションー日常に潜む見えない差別」

講師：金 友子氏（立命館大学国際関係学部准教授）

❖第2回：選択講座（ステップ）

2023年2月5日（日）13:30～16:30

「学び、社会にでていくー進学、就活を考える」

報告者：ダンス 瞳 イラリーデナディ氏

金子 ケシア氏（犬山家庭児童相談室相談員、一般社団法人DiVE.tv理事）

「働き、生計を立てるー労働の現場を考える」

報告者：樽松 佐一氏（愛知県労働組合総連合顧問）、

住吉 エリオ 洋一氏（岐阜ローカルユニオン執行委員）

「地域で生きるー地域住民との関係、老いに向けて考える」

報告者：上江洲 恵子氏（愛知高齢者盛況ケアセンターほみ管理者）、

金 順愛氏（元コリアンネット愛知事務局長）

❖第3回：アクション発表会（ジャンプ）

2023年3月19日（日）13:30～16:30

第2回を踏まえ、グループで課題解決に向けたアクションを検討。アイデアは全体で共有し、有識者（行政、当事者団体、専門家）から講評いただいた。

講評者：大橋 充人氏（愛知県立大学客員共同研究員）

金 順愛氏（元コリアンネット愛知事務局長）

平山 陽洋氏（名古屋外国語大学世界教養学部世界教養学科講師）



●中間支援機能の見える化

②-4 NPOセンタースタッフ交流会

(東海地区市民活動センタースタッフ交流会)

同業者が少なく普段から交流があまりない東海地域の市民活動支援センタースタッフ（中間支援団体スタッフ）を対象にした勉強会＆交流会を実施。

◆第11回／SDGsをセンターの事業に上手に取り入れるコツ ～アイコンを貼るだけじゃないSDGsの活かし方～

日時：2022年8月24日（水） 19：00～21：00

会場：スペース7番（名古屋市中区）

オンライン（ZOOMを使用）

ゲスト：NPO法人こまき市民活動ネットワーク 清水麻生さん

内容：SDGsに関するレクチャー及び「SDGsで自分の仕事を見直してみよう」グループワーク

参加者数：22名（対面参加10名、オンライン参加8名、運営スタッフ3名）

◆第12回／喫茶・スペース七番が出来るまで …から考えるまちづくり ～地縁型NPOと自治会について～

日時：2023年2月20日（月） 19：00～21：00

会場：スペース7番（名古屋市中区）

オンライン（ZOOMを使用）

ゲスト：まちの縁側育くみ隊、錦二丁目エリアマネジメント（株）

代表 名畑 恵さん

内容：まちの縁側育くみ隊、錦二丁目エリアマネジメントの取り組みや自治会とテーマ型NPOとの交流、及びグループワーク

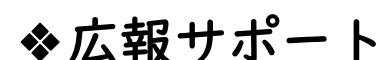
参加者数：24名（対面参加12名、オンライン参加9名、運営スタッフ3名）



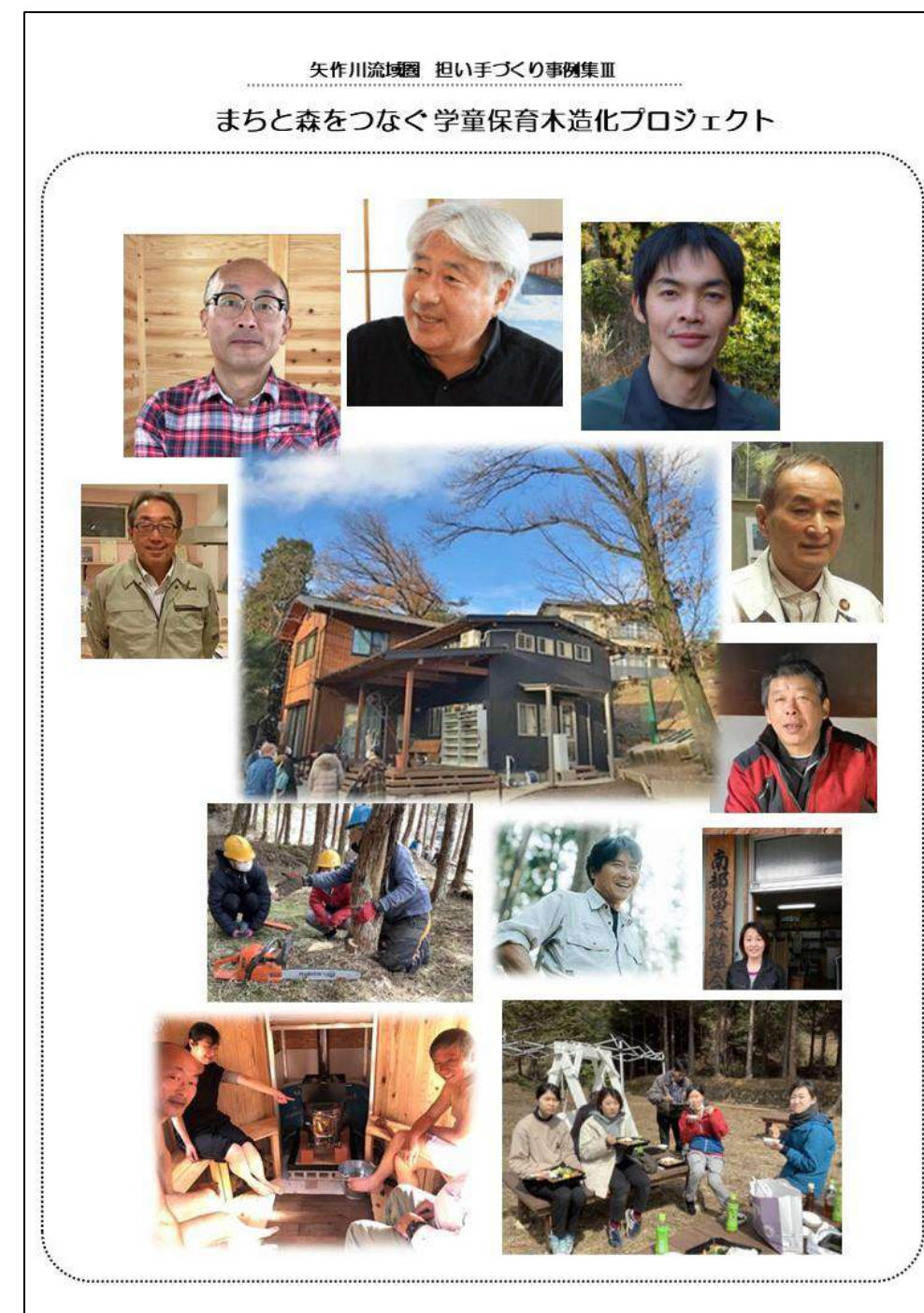
中間支援組織としての＜強み＞である 「広域でのネットワーク形成（連携促進）」と「そのネットワークを活かした現場体験型の人材育成」プログラムを実施しながら、東海地域の団体やネットワークの法人化や、さらなるネットワーク充実のための伴走支援を行う。

1) 法人化コンセプトづくり

- ・どんな法人形態（組織形態）が良いのか？
- ・ステークホルダーとの関係性を配慮し、運営資金をどのように調達するのか？
- ・運営体制



矢作川流域圏懇談会（事務局／国交省豊橋河川事務所）が毎年製作している「担い手事例集」の取材先を森と子ども未来とし、同会の目指すもの、学童保育所木造化の取り組みの関係者や実績をわかりやすく整理。広報ツールとして有効な冊子製作をコーディネートした。



2) 森とまちをつなぐESD

■額田木の駅勉強会

「浜松の林業、木材の流通について学ぶ ～学童保育所等の地域材建設を進めるために～」

＜講師＞ 浜松市林業振興課 森林・林業政策グループ
藤江俊充さん

❖ 2022年6月2日（木） 18：30～20：30

場 所 岡崎市額田センター こもれびかん
（愛知県岡崎市榎山町山ノ神21番地1）

共 催 額田木の駅プロジェクト

参加人数 約25名



3) 若者 根羽村合宿&矢作川流域ツアー

コーディネート 矢作川流域圏懇談会・ミライ会議との協働 ～流域ESD思考で「つなぐ・混ざる」活動～

■担い手事例集作成活動への参画

前述（P.17）の矢作川流域圏懇談会「担い手事例集」の2023年版は、森と子ども未来と連携する『都市の木質化プロジェクト』に決定。未来創造プログラムに参画する学生が取材メンバーとして活動中。



3) 若者 根羽村合宿&矢作川流域ツアーコーディネート矢作川流域圏懇談会・ミライ会議との協働

■「根羽村林業合宿」第2弾 林業の未来合宿 ～山の暮らしを楽しむ人々に学ぶ～

◆2022年8月18～19日

協力 根羽村森林組合協力、矢作川流域圏懇談会、人間環境大学 人間環境学部講師 江口則和さん

参加者 13名

未来創造プログラムメンバー（相山女学園大学、岐阜大学）＋名城大学・木造建築研究会メンバー
＋信州大学農学部

サポーター 7名

●8月18日 加工場にて「木づかい」についてレクチャー



●同日 木の養生場所見学



●同日 皆伐現場の見学



3) 若者 根羽村合宿 & 矢作川流域ツアーコーディネート 矢作川流域圏懇談会・ミライ会議との協働

林業の未来合宿 ～山の暮らしを楽しむ人々に学ぶ～

●8月19日 山地酪農を体感する



5年前に移住して、牛を牧草地で自然に近い状態で飼養する山地酪農に取り組む幸山明良さんからお話を伺う

●同日 製材所見学



●同日 ねばの森 杉山さんレクチャー



地域資源を生かしたコミュニティビジネスや、居場所づくりを行う人々をサポートする杉山さんから根羽村の魅力を伺った。



●同日 根羽村役場見学



3) 若者 根羽村合宿 & 矢作川流域ツアーコーディネート 矢作川流域圏懇談会・ミライ会議との協働

林業の未来合宿 ～山の暮らしを楽しむ人々に学ぶ～



③-2 各地域の取り組み

4) 三重県北勢地域情報交流会

※コロナ第七波の影響で、今年度は未実施

5) 愛知県渥美半島聞き書き

※コロナ第七波の影響で聞き書きは実施できなかったが、関連団体へ渥美半島というフィールドをつないだ。NPO法人名古屋NGOセンター主催「NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ」（通称「Nたま研修」）のカリキュラムのひとつ「フィールドワーク」研修地に環境ネットワークのメンバー・あかばね塾の拠点・田原市赤羽根町を紹介。2023年度、第20回目となるNたま研修フィールドワークを赤羽根町で実施することになった。地域づくりに関心のある多くの若者に渥美半島の自然や文化・暮らしを知る聞き書き的体験を提供することに寄与した。



名古屋NGOセンター・Nたま研修のスタッフとあかばね塾のみなさん

6) 岐阜県西濃地域

きれいな水といのちを守る全国集会&アースデイいびがわ

◆ 2022年10月8日(土), 9日(日), 10日(祝)

場 所 岐阜県垂井町文化会館、パレットピアおおの（岐阜県大野町）

主 催 きれいな水といのちを守る全国連絡会、西濃環境NPOネットワーク

西濃環境NPOネットワーク事務局長であり当団体副代表の岩間理事が実行委員長を務め、団体としても実行委員会に参画。運営を担った。全国から水環境に関心のある市民、企業関係者が西濃地域を訪れ、地元活動者との交流を深めた。



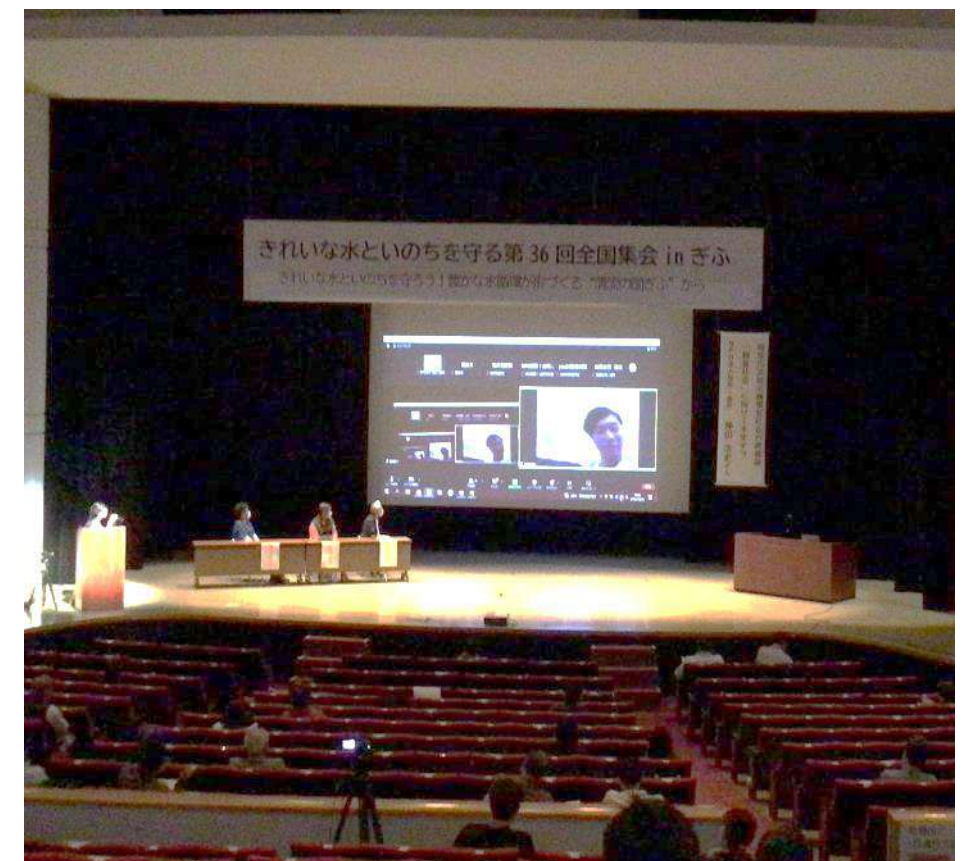
西濃環境NPOネットワーク事務局長
当団体理事 岩間さん



当団体理事 竹内さん
地域のネットワークを代表して挨拶



岐阜県西濃地域から三重県北部地域の特徴的な横穴式井戸『マンボ』フィールドワーク



④今、ここにいない人へのアプローチ（中間支援の見える化）

中間支援の機能・役割を企業や市民活動を知らない人々に伝えるツール（パンフレット）をつくる。同時に企業等へSDGs・社会貢献活動に社員が参加する機会を提供するパッケージ提案を関連団体と共に行い、それを活用して資金調達活動を行う。



1) ツールづくり（企業営業向けパンフ・若者向け紙芝居（仮））

企業に提案するエコ体験ツアーを視野に入れたパンフレットを制作

ステップ
1

提案内容

『現場体験』（エコ体験ツアー）など

里山保全活動や河川・海岸清掃などを行う市民活動の現場と、社員の皆さんへの福利厚生（家族向け・学びと自然体験）、ボランティア活動をつなげる提案です。

■プログラム（例）

【自然体験】

- ・里山間伐体験・ツリーハウス体験・カブトムシなどの昆虫、川の生物など生き物観察・農業体験 など

【体感しながら課題を学ぶ】

- ・河川清掃、海岸清掃、生ごみリサイクルの現場体験、放置竹林整備、多文化共生取り組み など

【地域の恵みを美味しく体験】

- ・里山の恵みを味わう、地産地消ランチ、フェアトレード・ショップめぐり など

企業にとってのメリットは？

①社員の福利厚生、ボランティアメニューに

環境市民活動の中には、子どもたちの自然体験や、地産地消の食の普及などに取り組む団体がたくさんあります。それらフィールドを、福利厚生の新たなメニューとして活用し、家族連れで楽しみながら、地域の自然や文化を知るプログラムをともにつくります。

地域デビューのための心得研修、必要なノウハウを学ぶワークショップなど別途メニューも提案いたします。

②ベテラン社員の地域デビューに

超高齢社会を迎える我が国において、シニア世代が、退職後の人生を充実させていくことは非常に大切な課題。自治体や大手企業の中には「地域デビュー手引書」的なものを作成し、取り組む時代となっています。本提案は、より豊かな地域での暮らしを多くの人が手に入れるきっかけをつくり、ご要望に応じてステップを踏むお手伝いいたします。

地域の未来・志援センター

持続可能な社会に向けた想いをお手伝い

志を持って活動する人

地域の未来・志援センターのミ

「共働」を進める中間支援組織の機能

～地域の

経済優先の社会だからこそ、持続可能な社会を目指すにも「おカネ」を知ることから始めようという素朴な視点で考える紙芝居を制作

持続可能な社会を考える紙芝居

おカネが外へ逃げて

外部世界

自分

外部世界

2)パイロット版パッケージづくり



株式会社デンソーの社会貢献事業窓口である総務人事厚生課に対し、社員が地域課題と出会って参加する窓口を増やすしくみづくりを視野に入れ、「地域発見ソウイング」を提案。

当団体としては、

- ＊運営コストを企業側に負担してもらうには、どのような条件が必要かをさぐる
- ＊地域課題に取り組む人材発掘・育成費用をNPOが調達するための方法を開拓することを目的として実施。

❖ 2022年12月17日（土）9：30～15：30

＜実施場所＞

現場体験

八風農園：八風農園（三重県いなべ市）

フライベッカーサヤ（三重県いなべ市）

桑竹会：平群神社周辺の竹林（三重県桑名市）

旧阿下喜保育所（三重県いなべ市）

昼食

旧いなべ保育所（三重県いなべ市）

＜対象＞デンソーグループの社員、OBOG

＜受け入れ団体＞

いなべの里山を守る会 ※最少催行人数に達しなかったため未実施

八風農園（はっふうのうえん）

NPO法人 桑竹会（そうちくかい）

※詳細は、別紙「地域発見ソウイング実施報告書」参照



デンソーグループ社員・OBの皆様

地域発見 ソウイング

SDGsを体感したい! & 地域貢献活動に参加したい!あなたへ

自然豊かな三重県桑名地域にはステキで楽しい取り組みがたくさんあります。まるでパッチワークを作るように、みんなでその取り組みを体験して、縫い合わせて、この地域を知って好きになっちゃおう!

2022年12月17日(土) 9時30分～15時30分(状況に応じ変更あり) いなべ市もしくは桑名市(各自車で移動) 参加費 4,000円～4,500円(締切日12/9(金)17:00)

プログラム①	プログラム②	プログラム③
人気のブッシュクラフト? 入門で書きます! ~自然で遊べるオトナになろう~	あの「隠れ家」レストランの美味しい野菜を収穫しよう! ~おいしいは地球に「やさしい」~	作業はシンプル!健康& 笑顔第2,第3の居場所づくり! ~定年後のやりがいの見つけ方~
＜高プログラム＞植物内でDIYに挑戦!	＜高プログラム＞隠れ家レストランのバックヤードツアー	＜高プログラム＞竹筒づくりと最後の使い道
こんな方にオススメです ★自然の中で思い切り遊びたいオトナ ★里山のあそびをマスターしたいオトナ ★ものづくりに興味があるオトナ	こんな方にオススメです ★おいしい野菜を自分でつくってみたい ★食育に熱心がある ★有機農業に興味がある	こんな方にオススメです ★地域活動のデビューを考えている ★チェーンソーなどの機械の使い方を知りたい ★自然の中で身体をつかう作業をしてみたい
里山の資源を活かして子どもたちの遊び場を作っている「いなべの里山を守る会」のフィールドで、今話題のブッシュクラフトの入門を体験します。アウトドアの経験がなくてもOK。山で遊ぶコツ、楽しさを伝えます。登山安全の指導でのご協力に、電動ドリル等の使い方を学び、竹など里山の素材を使って工作を行います。	有難の野菜をつくることは、「おいしい」野菜ができるだけでなく、人や地域や地球にやさしくなることもあります。いなべの里山を守る会に、食卓、パン屋さんなどを運営する「松風カンパニー」の八風農園で、あの「隠れ家」レストランで食材として使われる有機野菜の収穫や作業を体験しながら、地域にやさしいお話を聞きます。収穫した野菜はお持ち帰りできます。	桑名は菊の産地であると同時に、多くの放棄された竹林があります。ほっておくと里山や農地を荒廃したり、災害の原因になります。そんな課題を機械をつかってカッコよく解決する地域団体があります。その一員になって美しい竹林と一緒に作りましょう!
いなべの里山を守る会(いなべ市)	八風農園(いなべ市)	桑竹会(桑名市)

①②③のいずれかを選んでお申し込みください。【定員各10名】

【体験詳細】ソウイング専用のウェブサイト <https://2riyh.hp.peraichi.com>

【お申込み】ウェブサイト内にあるもりりん'ず'の申し込みフォームから

【問い合わせ先】Tel:052-936-3213 (平日10:00～17:30) E-mail:office@c-mirai.org (地域の未来・支援センター)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【企画運営】NPO法人 地域の未来・支援センター

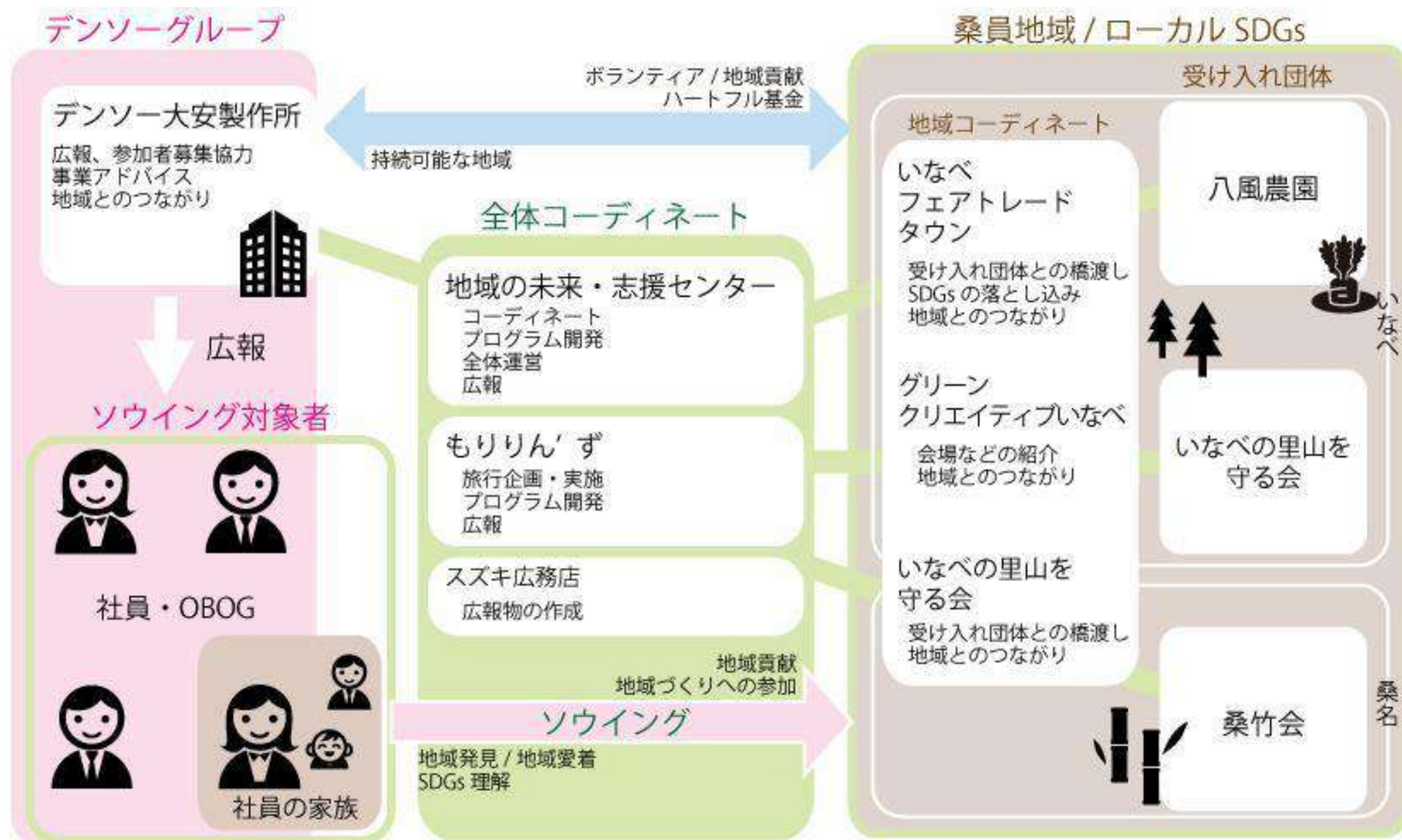
【銀行企画・実施】もりりん'ず'(有限会社桑企園) 愛知県知事登録銀行第2-1366号

【実施協力】いなべフェアトレードタウン／一般社団法人グリーンクリエイティブいなべ

【協力】株式会社デンソー 大塚製作所

2) パイロット版パッケージづくり

■ 「ソウイング」 実施体制



2) パイロット版パッケージづくり

❖2022年12月17日（土） デンソー社員・OB対象企画 第一弾

<八風農園>

あの“隠れ家”レストランのおいしい野菜を収穫しよう ～“おいしい”は地球に“やさしい”～



寺園さんのお話

雨プログラム実施予定であったが、雨が降る前に急遽近くの農園で収穫体験を実施した



冬野菜の収穫体験

最初は遠慮がちであったが、時間が経つにつれ積極的に収穫に参加され、楽しんでいるようであった。



その場で味わう

収穫した野菜をその場で食べている様子。野菜本来のおいしさを味わいつつ、このような味になる秘訣を聞いている。



フライベッカーサヤのバックヤードツアー

小麦の保管庫。建物は地域の方から格安で譲り受けた。

2) パイロット版パッケージづくり

◆2022年12月17日（土） デンソー社員・OB対象企画 第一弾

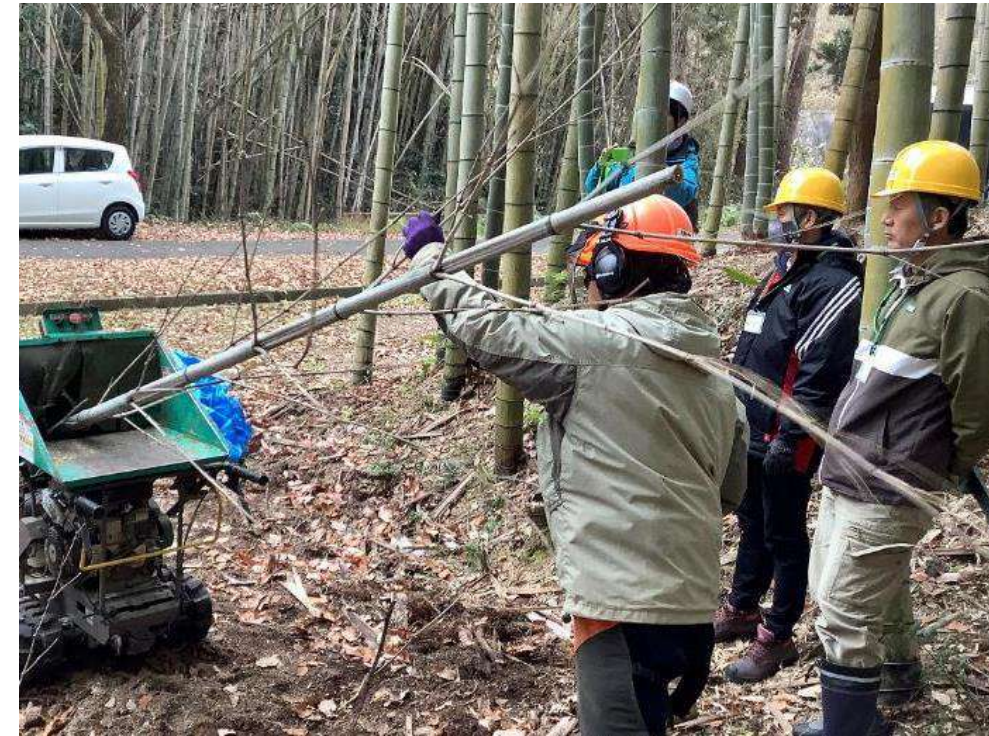
< 桑竹会 >

作業はシンプル！健康&爽快&第2、第3の居場所づくり ～定年後のやりがいの見つけ方



活動紹介

活動日は毎週水・土曜日だが、来られるときだけ参加の気楽な会員OKとのお話に、それだったらやれるかな…との声も



チップperの実演

粉碎能力のすごさを実感。ぼかしをつくっているKさんは土壌改良剤としての竹チップにも興味津々。



チェーンソーの使い方を説明

会員には、安全講習会、技能講習会の受講を薦め、道具の貸与もしているとのこと。



竹灯籠づくり

径の異なるドリルを使い、模様の穴あけに没頭。思いのほか美しい出来栄に、講師の作品をお土産用にもらった方も。

●資金調達

ソウイング春バージョン

❖ 2023年4月22日（土）9:00～11:00

<実施場所>

三重県桑名市播磨付近

<対象>デンソーグループの社員、OBOG

<受け入れ団体>

NPO法人 桑竹会（そうちくかい）

いなべの里山を守る会 ※最少催行人数に達しなかったため未実施

<協力団体>

NPO法人 生ごみリサイクル思考の会

12月17日に実施した1回目をふりかえり、午前午後通しての長時間プログラムは活動初心者にはハードルが高かったと考え、2回目は午前のみの体験プログラムとして企画。2023年4月22日は、前回に引き続き放置竹林活動入門として「たけのこ堀り」体験、4月29日は地域活動広報サポーターを募集したが、たけのこ堀り体験だけの申込であった。



桑竹会活動紹介



近隣地域で生ごみリサイクルにとりくむ川島さんのお話



桑竹会 別所さんによる掘り方レクチャー



SDGsを体感したい! & 地域貢献活動に参加したい!あなたへ

4/22 (土) 社会貢献活動① 放置竹林整備ボランティア(入門)

春の活動体験 たけのこほり

- ★たけのこほりを体験したい!
- ★放置竹林のことを知りたい。
- ★桑名地域のことが気になる!
- ★地域活動と繋がりをつくりたい!
- ★地域活動に参加したいけど何をしたらいいかわからない

作業はシンプル! 健康&爽快& 定年後のやりがいの 見つけ方

今が旬である「たけのこ」の収穫体験をします。桑名はたけのこの産地であると同時に、多くの放置された竹林があります。ほおっておくと里山や農地を浸食したり、災害の原因になったりします。そんな課題を解決するのが桑竹会。活動の一環としてたけのこの収穫出荷をしています。今回はたけのこの収穫を通して桑竹会の取り組みを知り、体感します。収穫したたけのこの一部をおみやげとしてお持ち帰りできます。

■開催日:2023年4月22日(土) ※雨天中止 ■時間:集合9:00～解散11:00

■場所:三重県桑名市志知周辺※現地集合

■内容:たけのこの収穫・桑竹会や桑名地域で活動する団体の取り組みのお話

■参加費:おとな2,500円(郷土たけのこ2本含む) 小学生以下1,500円(郷土たけのこ2本含む)

※3本目からは別途料金をいただきます。値段は当日の出荷価格(目安500円/kg)

■定員:15人(最少催行人数5人)

収穫祭に参加しませんか?(参加費無料! 希望者のみ)

同日11:30から桑竹会が主催する「収穫祭」が開催されます。たけのこ料理を作り、楽しいイベントです。たけのこほりに参加された方でご希望の方はこの収穫祭に参加することができます。

※申込時に参加のご希望をお知らせください。 ※ソウイングプログラム外の活動にはなりません。 ※詳細は専用ウェブサイトでご確認ください。 ※収穫祭会場までは各自で移動をお願いします。

4/22 or 4/29 社会貢献活動② 広報サポーター

広報で地域の活動を応援!

- ★楽しいことが好き! SNSの運営が得意!
- ★地域の活動を知りたい
- ★写真が趣味だ
- ★文章を書くことが得意
- ★情報発信にチャレンジしてみたい

地域の取り組みを取材して発信してみませんか?

桑名地域にあるステキな活動と社員・地域のみなさんをつなぐ橋渡しをしてみませんか? 地域にはステキな取り組みがたくさんありますが、なかなかその情報を得ることができません。「みんな」と「地域」を繋げるような、そんな人も必要なのではないでしょうか。今回はその第一歩として、取り組みを取材して発信していただける方を募集します!

① ② のどちらかの活動を訪れ、取材をしていただきます。取材方法は運営スタッフと相談しながら決めていきます。当日は運営スタッフが同行します。

[取材先]

① 桑竹会 春のたけのこほり

■開催日・時間・場所:4/22日の社会貢献活動①の内容と同じ

■参加費:無料 (たけのこほり体験するのであれば2,500円)

■定員:3名程度

② いなべの里山を守る会 子どもむけ企画「自然観察会」

■開催日:2023年4月29日(土) ※雨天中止 ■時間:集合9:15～解散11:30

■場所:三重県いなべ市大町町石持下周辺

■内容:いなべ市で里山保全、子どもの自然体験等の活動をしている「いなべの里山を守る会」が開催する子ども向けのイベント「自然観察会」を取材します。

■参加費:無料 ■定員:3名程度

申し込み締め切り 2023/4/18 (火)

受け入れ団体 ウェブサイト 桑竹会 <https://souchikukai.com/> いなべの里山を守る会 <https://inabesatoyama.jimdofree.com/>

[お申し込み方法]

申し込みは、社会貢献活動①②のいずれかを選んでウェブサイト内にある「もりりんず」の申し込みフォームから申し込みをお願いします。

<https://sewing.hp.peraichi.com/spring>

詳細は専用ウェブサイトでご案内しています

企画運営 お問合せ NPO法人 地域の未来・志援センター TEL:052-936-3213 E-mail:office@c-mirai.org

旅行企画 実施 もりりんず(有限会社 泉企画) 愛知県知事登録旅行業第2-1366号

協賛 株式会社 デンソー 大空製作所

※詳細は、別紙「地域発見ソウイング春バージョン」報告書参照

⑤補助金や助成金（資金調達）に強くなるための調査・実践

1）ローカルESG勉強会

すべてオンラインで実施

日にち	講師	内容
2023/4/19	草の根金融研究所「くさの一ね」 代表 多賀 俊二氏	ESG金融の関わり・その可能性について
2023/5/31	NPO法人市民ネットすいた 理事長 柳瀬 真佐子 氏 草の根金融研究所「くさの一ね」 代表 多賀 俊二氏	北摂NPO・SB支援のための緊急補助金プロジェクトについて 中間支援組織連携プロジェクトについての解説
2023/6/28	プラスソーシャルインベストメント(株) 野池 雅人 氏	プラスソーシャルインベストメント(株)の取り組みから
2023/7/26	公益財団法人東近江三方よし基金 常務理事 山口 美知 氏 草の根金融研究所「くさの一ね」 代表 多賀 俊二氏	東近江三方よし基金について 休眠預金についての解説
2022/8/23	草の根金融研究所「くさの一ね」 代表 多賀 俊二氏	前半のふりかえりと今後の進め方
2022/9/27	草の根金融研究所「くさの一ね」 代表 多賀 俊二氏	地域経済循環に関するワークショップ

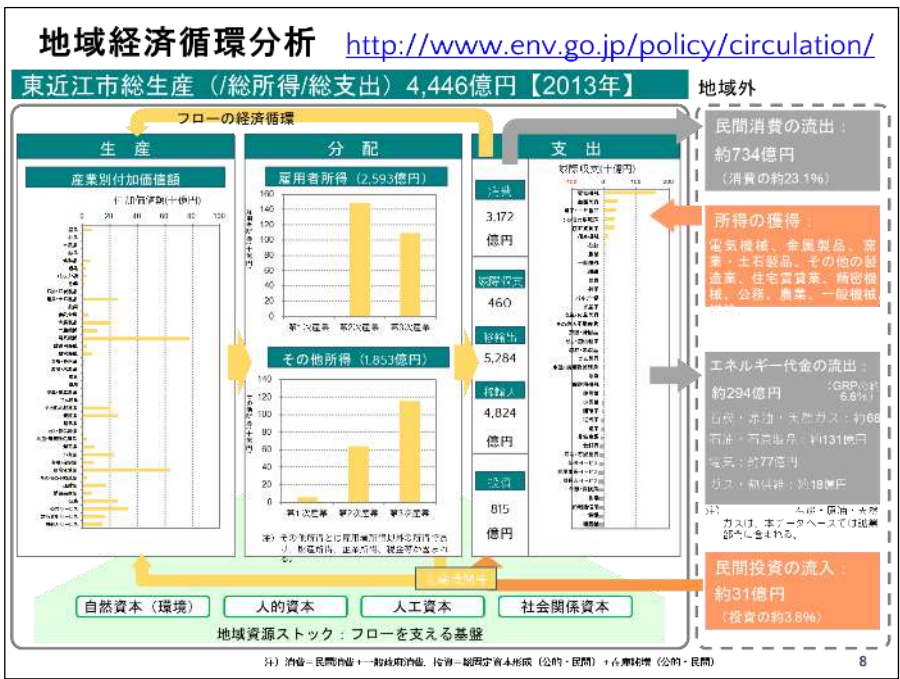
「ローカルESG勉強会」

プラスソーシャルインベストメント（株）
の取り組みから

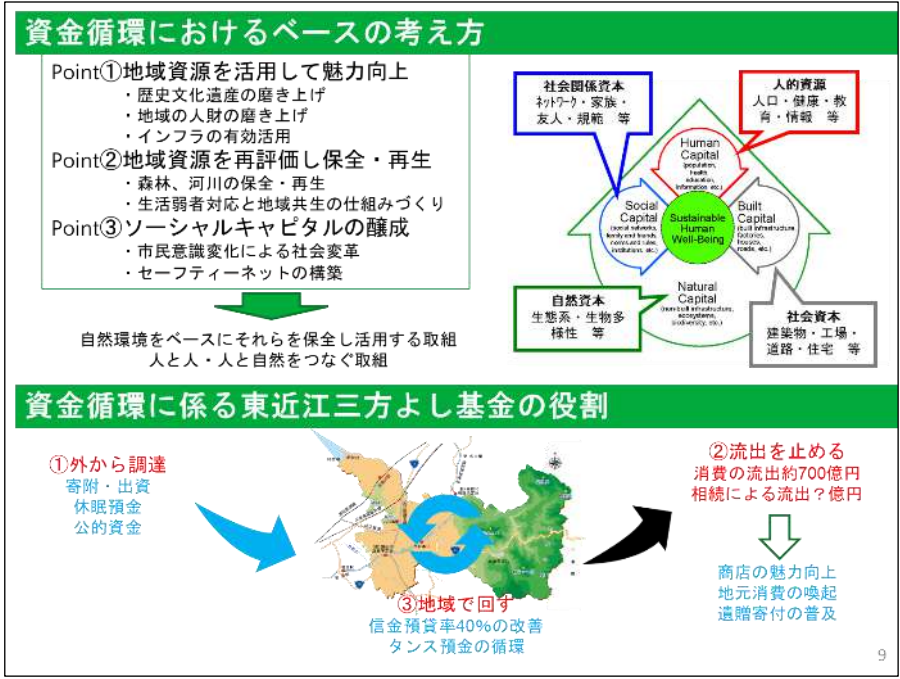
2022年6月28日（火）
野池 雅人



勉強会の様子
2022年6月28日講師 野池氏



東近江市 経済循環分析



地域内資金循環の考え方
東近江三方よし基金 山口氏の資料より

●資金調達

2) 助成財団サミット

助成を行う団体や企業同士の意見交換の場である助成財団サミットをエコネット近畿、きたネットと協働で実施。講師を招いての学びの場を2回、テーマを決めての意見交換の場を2回行った。すべてオンラインで開催。

日にち	講師	内容
2022/9/29 14:00~16:30	社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長 永井 美佳氏	環境団体全般にみられる課題や課題解決に繋がる支援の在り方
2022/10/27 14:00~16:00	意見交換会のため各団体スタッフがファシリテータを務めた	助成制度の運営や業務に関する情報・ノウハウ ①広報 ②新型コロナウイルス対応 ③成功助成事例 ④お困りごと
2022/12/15 14:00~16:00	特定非営利活動法人セイエン 代表理事 関口 宏聡氏	他分野助成事例や助成トレンド紹介
2023/2/16 14:00~16:30	意見交換会のため各団体スタッフがファシリテータを務めた	助成制度の運営や業務に関する情報・ノウハウ ①助成先とのコミュニケーション、審査会 ②助成対象・対象外経費や助成割合

●情報発信

⑥メールニュースの発行、ウェブサイトの更新

■メールニュース HP

実施項目	メールニュースの発信	HPの更新	メール配信先数	FB「いいね」数
目標	年間12回	月1回 年間12回	900件	1000
実績 21年6月～ 22年5月	12回	24回	671件 会員53 愛知301 岐阜140 三重177	954

■ソーイング専用のウェブサイトの立ち上げ
企業向け研修パッケージづくりパイロット版「ソーイング」の広報、参加者申し込み専用のウェブサイトを2件立ち上げた。

ソーイング
<https://2riyh.hp.peraichi.com>
ソーイング春バージョン
<https://sewing.hp.peraichi.com/spring>

⑦総会および理事会・運営会議の開催

1. 第18回通常総会

- 【実施日時】 2022年8月4日(木) 14:00～15:00
- 【実施場所】 オンラインおよび地域の未来・志援センター事務所
- 【審議事項】 第1号議案 2021年度事業報告について
第2号議案 2021年度決算について
第3号議案 2022年度事業計画について
第4号議案 2022年度予算について

2. 2022年度理事会

❖第105回定例理事会

- 【実施日時】 2022年7月1日(金) 14:00～16:00
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 6人
- 【内 容】 総会について
企業向け研修パッケージ、団体パンフレットづくりについて

❖第106回定例理事会

- 【実施日時】 2023年3月14日(火) 13:30～16:00
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター事務所
及びオンライン
- 【出席者数】 8人
- 【内 容】 2023年度事業について
団体の在り方について

3. 2022年度運営委員会

❖22年度第1回運営委員会

- 【実施日時】 2022年7月14日(木) 16:00～17:30
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 7人(理事、事務局)
- 【内 容】 23年度の運営体制について
企業向け研修パイロット版について

❖22年度第2回運営委員会

- 【実施日時】 2023年1月23日(月) 15:30～17:00
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 10人(理事、事務局)
- 【内 容】 23年度の団体の在り方について
企業向け研修パイロット版について



地域の未来・志援センター



〒461-0002

愛知県名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5階
中部リサイクル運動市民の会内

TEL : 052-936-3213

FAX : 052-982-9089

E-mail : office@c-mirai.org, URL : <http://www.c-mirai.org/>